

# 新潟大学皮膚科特別セミナー

日時:2026年6月24日(水)18:00~

\*Zoomにて開催します。

## 単一細胞レベルの解析で迫る ANCA関連血管炎の病態

大阪大学医学部附属病院 免疫内科

科長・病院教授 **西出 真之先生**

ANCA関連血管炎(AAV)は中小血管の壊死性血管炎を特徴とし、好中球の過剰活性化が病態の中心と考えられているが、その分子基盤は十分に理解されていない。我々は新規発症AAV患者の末梢血白血球を対象にシングルセルRNA解析を行い、炎症性単球サブセットや、II型インターフェロン刺激遺伝子を高発現する好中球サブセットを同定した。これらのサブセットの拡大は疾患活動性や再燃リスクと関連しており、特定の免疫細胞がAAVの病態の一翼を担う可能性を示唆している。本講演では、単一細胞レベルの解析が血管炎の病態層別化や治療標的探索へとどのようにつながるのか、今後の展望を含めて議論したい。

1. Nishide M, Shimagami H, Kumanogoh A. Single-cell analysis in rheumatic and allergic diseases: insights for clinical practice. *Nature Reviews Immunology*. 2024;24:781-797.
2. Nishide M et al. Neutrophil single-cell analysis identifies a type II interferon-related subset for predicting relapse of autoimmune small vessel vasculitis. *Nature Communications*. 2025;16:3581.